

## 〈研究資料〉

## 国内市民マラソンにおける外国人参加者数の把握状況

上杉 杏\*・工藤 康宏\*\*

## Current status of the number of foreign participants in Japanese running events

An UESUGI\* and Yasuhiro KUDO\*\*

## Abstract

本研究の目的は、インバウンドツーリズム資源として期待されている日本開催のランニングイベントに着目し、大会運営側の外国人参加者数、併せて開催地域内・外参加者数の把握状況を明らかにすることであった。2015年度の日本陸上競技連盟公認コースフルマラソン大会65大会を対象とし、各マラソン大会事務局に対し、メールまたは電話にて大会参加者数把握状況の問い合わせを行った。各マラソン大会が把握しているエントリー数と出走者数を総数、国別(日本・外国)、地域別(開催地域内・外)に質問した。

調査対象大会65大会のうち56大会から回答が得られた。外国人参加者数を把握している大会は4割程度とあまり把握されておらず、全体として、実際に大会に訪れている出走者数よりもエントリー数の方が把握されていたことがわかった。このことから、日本のランニングイベント運営側の参加者数把握方法の見直しの検討が必要であることが明らかとなった。スポーツイベントはインバウンドツーリストのデータを収集する好機である。外国人参加者のデータを含む基礎資料を蓄積することで、インバウンドツーリストを対象とするアプローチの多様化、マーケティング戦略の具体化、イベントの活性化に貢献できるだろう。

Key words: sport tourism, inbound sport tourist, running event

## I. 緒 言

2015年に初めて訪日外国人旅行者数が出国日本人数を上回り、政府は2030年までに訪日外国人旅行者数を2015年の約3倍である6,000万人達成という目標を掲げている(観光庁, 2018)<sup>4)</sup>。その背景にあるのは訪日中の外国人旅行者の好調な消費傾向である。2018年の訪日外国人旅行消費額は4.5兆円

と推計されており(観光庁, 2019)<sup>3)</sup>、インバウンドツーリズムの振興は現在の少子高齢化社会である日本の成長戦略の一つに位置付けられている。インバウンドツーリズムの柱の一つとして期待されているのが、スポーツツーリズムであり、特にランニングイベントは国内・国外から多くのスポーツツーリストを惹きつける資源として期待されている。東京マラソンは、国際的な知名度が高い大規模6大シティマラソン大会(東京, ボストン, ロンドン, ベルリン, シカゴ, ニューヨークシティ)で構成されているアボット・ワールドマラソンメジャーズの一つとして、世界的にも認知度が高い。東京マラソンの成功にならない、大阪マラソンや京都マラソンといった都市部におけるランニングイベントは多くの外国人ランナーを獲得している。また、北海道観光振興

\* 順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科  
Graduate School of Health and Sports Science,  
Juntendo University

\*\* 順天堂大学スポーツ健康科学部  
School of Health and Sports Science, Juntendo  
University, 1-1 Hiraka-gakuendai, Inzai-shi, Chiba  
270-1695 JAPAN

責任著者: 上杉 杏

E-mail: anuesugi@gmail.com

機構<sup>2)</sup>は、2016年に「観光成熟市場誘客促進事業」としてマラソンに着目しており、北海道マラソン実行委員会や旅行会社と情報共有を行い、道内へのインバウンドツーリスト誘客を図っている。

インバウンドツーリスト獲得を見据えた地域政策の立案や検証を行うためにもインバウンド・スポーツツーリスト数の推移や属性といった統計は重要な資料となることが考えられる(河田ら, 2004)<sup>5)</sup>。これまで、日本で開催されるランニングイベントへの参加者に関する研究では、ランニングイベントへの参加動機(山口ら, 2011)<sup>13)</sup>や制約要因(備前ら, 2015)<sup>1)</sup>、再参加要因(柴田, 2014)<sup>10)</sup>に関する研究が散見される。また、日本へのスポーツを目的としたインバウンドツーリストに関する研究を概観すると、非日本人スポーツツーリストを対象とした日本におけるスポーツ参加や観戦旅行に対する制約要因に関する研究(西尾, 2019; 上杉・工藤, 2016)<sup>8)12)</sup>、や訪日スポーツイベント参加者の旅行者特性に関する研究(上杉, 2017)<sup>11)</sup>がみられる。一方で、日本におけるスポーツを目的としたインバウンドツーリストは増加傾向にあるものの、日本政府観光局<sup>7)</sup>や日本スポーツツーリズム推進機構<sup>9)</sup>においても、実数に触れた調査や報告は見当たらない。スポーツによるインバウンドツーリズム活性化に向けた参加者データの蓄積は未着手の課題となっている。

ランニングイベントのような登録型スポーツイベントは、事前の登録の際に、参加者の現住所の表記を求めることができる。また、大会当日の受付では、リスクマネジメントの観点から出走者数や完走者数を把握できることから、訪日外国人大会参加者数や参加者の属性を正確に把握できる特徴がある。日本において2019年に開催されたラグビーワールドカップから東京オリンピック・パラリンピック2020、ワールドマスターズゲームズ2021とメガスポーツイベントが立て続けに開催されるが、このようなゴールデンスポーツイヤーズ(間野, 2016)<sup>6)</sup>後には、これまで以上に戦略的にスポーツイベントを運営することが要求される。そのため、日本にお

いては訪日外国人に限らず、県外などの開催地域外からのインバウンド・スポーツツーリスト数の推移や現状把握といった基礎データを明らかにすることが求められる。

そこで本研究は、インバウンドツーリズム資源として期待されている日本開催のランニングイベントに着目し、大会運営側の外国人参加者数、併せて開催地域内・外参加者数の把握状況を明らかにすることを目的とした。

## II. 研究方法

2015年度の日本陸上競技連盟公認コース国内フルマラソン大会65大会(2014年11月から2015年10月の1年間に開催された大会)を対象とした。第一段階として、各マラソン大会公式ホームページにて、大会参加者数、外国語表記の有無を調査した。続いて、各マラソン大会事務局に対し、メールまたは電話にて大会参加者数把握状況の問い合わせを行った。調査項目は、エントリー総数・出走者総数、外国人エントリー数・出走者数、開催地域内・外エントリー数・出走者数を設定した。

## III. 結果

### 1. 全体の把握状況

調査対象とした国内フルマラソン大会65大会のうち、56大会から回答が得られた。本研究では、回答が得られた56大会について分析を行った。表1は各大会の公式ホームページにおける外国語表記の有無、各大会事務局への問い合わせにより得られた参加者数の一覧を示したものである。空欄は参加者数が把握されていないことを意味しており、「0」は参加者なしであることを把握していることとなる。

各大会の公式ホームページにおいて外国語表記に対応している大会は22大会(37.3%)と約4割であった。把握状況に関しては、開催地域からのエントリー数を把握している大会が42大会(71.2%)、開催地域からの出走者数を把握している大会が23大会(39.0%)であった。開催地域外からのエントリー数・出走者数の把握状況も同様の結果であっ

表1 各大会の参加者数把握状況

大会名 (○:開催地域が政令指定都市)	都道府県	大会HP 外国語 表記有無	全体		開催地域内		開催地域外		外国人	
			エントリー	出走者	エントリー	出走者	エントリー	出走者	エントリー	出走者
洞爺湖マラソン	北海道	○		7,897						17 (0.2%)
別海町パイロットマラソン	北海道	×		1,728		1,137		142		
北海道マラソン○	北海道	○	19,198	17,366	11,443		7,755		390	
田沢湖マラソン	秋田	○	5,751	5,279	3,182		2,569			
長井マラソン大会	山形	×		654		360		294		2 (0.3%)
いわきサンシャインマラソン	福島	×	10,428	8,786	5,882		4,546			
湯のまち飯坂・茂庭っ湖マラソン	福島	×		1,262		412		850		
かすみがうらマラソン	茨城	○	28,280	22,979	7,971	6,738	20,248	16,198	61	43 (0.2%)
つくばマラソン	茨城	○	16,150	13,763	4,697	4,079	11,453	9,684		
大田原マラソン	栃木	×	5,181	4,026	976		4,025		0	0 (0.0%)
はが路ふれあいマラソン	栃木	×	2,318	1,848	1,086	875	1,232	973	3	3 (0.2%)
日光ハイウェイマラソン大会	栃木	×	3,369	2,741	1,847		1,501		12	
榛名湖マラソン	群馬	×	1,628	1,147	378	262	1,250	885		
前橋・渋川シティマラソン	群馬	×	6,429	5,570	4,865	3,997	1,276	1,069	14	14 (0.3%)
館山若潮マラソン	千葉	×	11,740	10,299						
佐倉朝日健康マラソン	千葉	×	12,697	10,516	8,790	7,387	3,907	3,129		
板橋Cityマラソン	東京	×	19,735	15,889	9,901	7,923	9,834	7,966		
東京マラソン○	東京	○	305,734	35,797						5,317 (14.9%)
湘南国際マラソン	神奈川県	○	23,946	21,798	15,494		8,298		150	
富士山マラソン	山梨	○	15,330	12,824	740		14,053		537	
柏崎マラソン	新潟	×	2,120	1,839	1,564	1,280	556	393	4	2 (0.1%)
能登和倉万葉の里マラソン	石川	×	6,803	6,006	3,370	3,033	3,433	2,746	72	72 (1.2%)
福井マラソン	福井	×	8,211	7,300	6,546		1,665			
大町アルプスマラソン	長野	×	3,687	3,094	1,580		2,107			
長野マラソン	長野	○	10,058	9,558					275	
しまだ大井川マラソンinリパディ	静岡	×	8,849	7,579	4,573		4,271			
静岡マラソン○	静岡	○	12,298	10,169	5,115		7,183			
名古屋ウィメンズマラソン○	愛知	○	18,000	17,846						1,456 (8.2%)
いびがわマラソン	岐阜	×	10,264	9,046	3,567		6,685		8	
あいの土山マラソン	三重	×	4,304	3,715	1,571		2,733		20	
福知山マラソン	京都	×	10,000	8,794	2,731		7,269			
京都マラソン○	京都	○	59,929	16,004		4,481		9,746		1,777 (11.1%)
大阪マラソン○	大阪	○	145,473	31,981						1,366 (4.3%)
篠山ABCマラソン	兵庫	×	10,283	8,264	4,446		5,837			
神戸マラソン○	兵庫	○	86,516	19,380	33,243		52,444		829	
世界遺産姫路城マラソン	兵庫	×	6,777	6,034	4,159		2,613		5	
奈良マラソン	奈良	×	18,865	16,684	8,227		10,403		235	
紀州口熊野マラソン	和歌山	×	5,775	5,351	3,078		2,697			
下関海響マラソン	山口	○	10,581	9,197	5,532	4,242	5,049	3,892	97	67 (0.7%)
とくしまマラソン	徳島	○	11,897	10,628	7,582	6,863	4,315	3,765	58	43 (0.4%)
海部川風流マラソン	徳島	×	1,970	1,665	1,464	1,260	506	405	2	2 (0.1%)
愛媛マラソン	愛媛	×	10,848	9,937	7,977		2,871		1	1 (0.01%)
高知龍馬マラソン	高知	×	7,745	6,543	3,672	3,316	4,073	3,227		
北九州マラソン○	福岡	○	12,528	11,382	9,251	8,607	3,251	2,850	70	57 (0.5%)
福岡マラソン○	福岡	○	46,547	10,173						
さが桜マラソン	佐賀	×	11,739	10,055		4,577		5,401		77 (0.8%)
天草マラソン大会	熊本	×	4,024	3,499	2,719	2,396	1,305	1,103		
熊本城マラソン○	熊本	○	25,975	13,273	16,382		9,593			
とみくじマラソン	大分	×	3,439	2,318	2,256		1,182		1	
青島太平洋マラソン大会	宮崎	×	12,002	10,184	5,960		5,997		45	
いぶすき菜の花マラソン	鹿児島	○	19,364	18,150	11,168		8,175		21	
ヨロンマラソン	鹿児島	×	1,021	928	419		602		4	
出水ツルマラソン	鹿児島	×	3,155	2,853	1,903	1,614	1,252	984	4	4 (0.1%)
NAHAマラソン	沖縄	○	29,568	26,905		15,769		10,004		1,132 (4.2%)
おきなわマラソン	沖縄	○		16,752		13,120		2,803		829 (4.9%)
久米島マラソン	沖縄	×	1,536	1,397	1,048		511			
合計	n	22	51	56	42	23	42	23	26	21
	%	(37.3%)	(86.4%)	(94.9%)	(71.2%)	(39.0%)	(71.2%)	(39.0%)	(44.1%)	(35.6%)

注1) 2014年11月～2015年10月の間に開催された大会の把握状況。

注2) 空白は把握されていないことを表す。

注3) 合計欄のn、%は把握している大会数とその割合。

注4) 外国人出走者数欄にある(%)は出走者総数に占める外国人出走者数の割合。

た。外国人エントリー数を把握している大会は26大会(44.1%)、外国人出走者数を把握している大会が21大会(35.6%)であった。国内からのエントリー数・出走者数の方が、外国人エントリー数・出走者数よりも把握されており、国内からの参加者、外国人参加者ともにエントリー数が出走者数よりも

把握されていることが明らかとなった。

出走者総数に占める外国人出走者数の割合が1%以上の大会は、「東京マラソン」(14.9%)、「京都マラソン」(11.1%)、「名古屋ウィメンズマラソン」(8.2%)、「おきなわマラソン」(4.9%)、「大阪マラソン」(4.3%)、「NAHAマラソン」(4.2%)、「能

表2 大会の属性による把握状況の比較

カテゴリー	国内からのエントリー数			国内からの出走者数			外国人エントリー数			外国人出走者数														
	未把握	把握	$\chi^2$ 検定	未把握	把握	$\chi^2$ 検定	未把握	把握	$\chi^2$ 検定	未把握	把握	$\chi^2$ 検定												
	(n) %	(n) %	p	(n) %	(n) %	p	(n) %	(n) %	p	(n) %	(n) %	p												
<b>【開催都市】</b>																								
政令指定都市	(5)	50.0	(5)	50.0		*	(8)	80.0	(2)	20.0		n.s.	(7)	70.0	(3)	30.0		n.s.	(5)	50.0	(5)	50.0		n.s.
非政令指定都市	(9)	19.6	(37)	80.4			(25)	54	(21)	45.7			(23)	50.0	(3)	50.0			(30)	65.2	(16)	34.8		
<b>【大会規模】</b>																								
小規模	(3)	14.3	(18)	85.7			(10)	47.6	(11)	52.4			(9)	42.9	(12)	57.1			(13)	61.9	(8)	38.1		
中規模	(5)	22.7	(17)	77.3		n.s.	(15)	68.2	(7)	31.8		n.s.	(14)	63.6	(8)	36.4		n.s.	(16)	72.7	(6)	27.3		n.s.
大規模	(6)	46.2	(7)	53.8			(8)	61.5	(5)	38.5			(7)	53.8	(6)	46.2			(6)	46.2	(7)	53.8		
<b>【大会公式HP】</b>																								
英語表記無	(5)	14.7	(29)	85.3		*	(19)	55.9	(15)	44.1		n.s.	(18)	52.9	(16)	47.1		n.s.	(24)	70.6	(10)	29.4		n.s.
英語表記有	(9)	40.9	(13)	59.1			(14)	63.6	(8)	36.4			(12)	54.5	(10)	45.5			(11)	50.0	(11)	50.0		

\*: p<.05, n.s.: 有意差なし

登和倉万葉の里マラソン」(1.2%)であった。「能登和倉万葉の里マラソン」を除いた6大会は出走者総数が15,000人以上の大規模な大会であり、大会の公式ホームページでは外国語表記に対応していることがわかった。

表2は、大会の属性による把握状況の比較を行ったものである。参加者数把握状況と各大会の開催都市、大会規模、公式ホームページの外国語対応との間でクロス集計表を算出し、 $\chi^2$ 分析を行った。調査項目の、開催地域内・外からの各エントリー数、出走者数の把握状況はそれぞれ同じであったため、「国内からのエントリー数」、「国内からの出走者数」とまとめることとする。

### 2.1. 開催都市による把握状況の比較

大会が開催される地域が政令指定都市（以下、政令市とする）であるか否かによって把握状況の比較を行った。外国人出走者数に関しては、開催地域が政令市である大会（50.0%）の方が非政令市である大会（34.8%）より把握されていた。一方で、その他の項目の、国内からのエントリー数（政令市：50.0%、非政令市：80.4%）、国内からの出走者数（政令市：20.0%、非政令市：45.7%）、外国人エントリー数（政令市：30.0%、非政令市：50.0%）に

関しては、開催地域が非政令市の大会が政令市である大会より把握していた。しかし、国内からのエントリー数の把握状況のみ5%水準で統計的に有意な差が認められた。また、開催地域が政令市でない大会は、国内からの参加者、外国人参加者ともにエントリー数を出走者数よりも把握していたが、政令市である大会は、国内からの参加者はエントリー数の方が出走者数より把握しているものの、外国人参加者に関しては、エントリー数よりも出走者数を把握していたことが明らかとなった。

### 2.2. 大会規模による把握状況の比較

各大会の出走者総数をもとに大会規模によるカテゴリーの分類を行った。出走者総数の平均値+0.5 SD以上の群（13,836以上）を大規模大会、平均値+0.5 SDから-0.5 SDまでに含まれる群（6,045から13,835の範囲）を中規模大会、平均値-0.5 SD以下の群（6,044以下）を小規模大会とした。

国内からのエントリー数（大規模：53.8%、中規模：77.3%、小規模：85.7%）・出走者数（大規模：38.5%、中規模：31.8%、小規模：52.4%）に関しては、小規模大会が最も把握している一方、外国人出走者数（大規模：53.8%、中規模：27.3%、小規模：38.1%）は大規模大会が最も把握していた。し

かし、これら全てにおいて統計的に有意な差は認められなかった。

小規模・中規模大会は、国内からの参加者、外国人参加者ともに出走者数よりエントリー数を把握していた。一方で、大規模大会は、国内からの参加者数は出走者数よりもエントリー数を把握していたものの、外国人参加者数はエントリー数よりも出走者数を把握していたことが明らかとなった。

### 2.3. 外国語対応による把握状況の比較

各大会の公式ホームページにおける外国語表記の有無によって把握状況の比較を行った。外国人出走者数に関しては、大会公式ホームページにおいて外国語表記に対応している大会（50.0%）が外国語表記に対応していない大会（29.4%）より把握しており、その他の項目である国内からのエントリー数（外国語表記無：85.3%，外国語表記有：59.1%）・出走者数（外国語表記無：44.1%，外国語表記有：36.4%）、外国人エントリー数（外国語表記無：47.1%，外国語表記有：45.5%）に関しては、外国語表記に対応していない大会の方が把握していた。しかし、国内からのエントリー数の把握状況のみ5%水準で統計的に有意な差が認められた。

外国語表記対応無しの大大会は、国内からの参加者、外国人参加者ともに出走者数よりエントリー数を把握していた。一方で、外国語表記対応有りの大大会は、国内からの参加者数は出走者数よりもエントリー数を把握していたが、外国人参加者数はエントリー数よりも出走者数を把握していた。

## IV. 考 察

本研究の結果から、2015年度の日本陸上競技連盟公認コースであるフルマラソン大会56大会において、国内からのエントリー数を把握している大会が約7割、出走者数を把握している大会が約4割であることがわかった。一方で、外国人エントリー数を把握している大会は約4割、出走者数を把握している大会が4割以下と、外国人ランナーは国内からの参加者に比べ把握されていないことが明らかとなった。

開催地域が政令市である大会、参加者総数が多い大規模な大会、大会公式ホームページが外国語表記に対応している大会は、外国人参加者の出走者数の把握状況がエントリー数の把握状況よりも高かった。このことから、インバウンドツーリスト獲得を視野にした運営がなされている大会は、実際に訪日している出走者数の把握を重要視していることが推察できる。

大会の属性による把握状況の比較では、開催都市（政令市・非政令市）と大会公式ホームページの外国語対応（表記有・表記無）において国内からのエントリー数の把握状況に違いがみられた。開催都市に関しては非政令市である大会、大会公式ホームページに関しては外国語表記対応が無い大会がより国内エントリー数を把握していた。このことから、開催地域の人口が政令市ほど多くなく、外国人参加者の受け入れ態勢があまり整っていないと考えられる大会は、国外からの参加者よりも国内からの参加者のデータを重要視していることが考えられる。外国人参加者を大会の対象として位置づけていない大会が存在することが考えられることから、半数以上の大会が外国人参加者数を把握していないことが推察できる。

また、全体的に国内からの参加者数、外国人参加者数ともにエントリー数よりも出走者数が把握されていない現状であった。ランニングイベントはインバウンドツーリスト獲得のための有用な資源として期待されているものの、外国人参加者数や実際に大会に参加している出走者数を運営側はあまり把握していないことが明らかとなった。今後のランニングイベント開催側のエントリー数、出走者数の管理方法の見直しに加え、エントリー時に取得可能な参加者の性別や年齢、居住地といった基礎データの収集が求められることが考えられる。

## V. 研究の限界と今後の研究

本研究では、インバウンド・スポーツツーリストに着目しているものの、外国人参加者が在日であるか訪日であるかの把握状況を明らかにすることがで

きなかった。今後、大会運営側の外国人参加者の在日・訪日把握状況や把握方法を調査していくことが課題となる。加えて、大会運営側の開催趣旨(地域活性化、地域スポーツ振興、生涯スポーツ促進、競技力向上など)や主催団体による把握状況の比較を今後行っていく必要があるだろう。

本研究では、外国人参加者数が出国日本人者数を始めて上回り、海外に対して日本のランニングイベントの情報発信を始めた2015年時の外国人参加者把握の現状を明らかにした。日本でのスポーツコミッションの浸透や2016年からのホストタウン事業の推進により、インバウンドツーリスト獲得への関心が一層高まっていることから、今後日本開催のランニングイベントへの外国人参加者数が増加することが考えられる。本研究で得られた数値をベースにデータを蓄積し、経年変化をみていくことによってランニングイベントがインバウンドツーリズム資源としての有効性があるかの検討も行う必要があるだろう。

## VI. 結 論

インバウンドツーリズムの柱の一つとしてスポーツツーリズムが期待されており、日本では2019年から3年連続でメガスポーツイベントが開催されることから、スポーツツーリズムへの注目がさらに高まっている。ゴールデンスポーツイヤー後には、これまで以上に戦略的にスポーツイベントを運営することが要求されるため、日本においてはインバウンド・スポーツツーリスト数の推移や現状把握といった基礎データを明らかにすることが求められる。一般的なスキー参加者や皇居ランナー、アウトドアスポーツレクリエーションistといったスポーツ参加型・スポーツ愛好型やスポーツ観戦型のツーリストの個人的属性を把握することは難しい。一方で、スポーツイベント参加型スポーツツーリストは、イベントエントリー時に登録を行うため、スポーツイベント参加者数や参加者の個人的属性の把握が容易である。日本において今後、継続的にインバウンドツーリストを獲得するためには、インバウ

ンドツーリストを数値として表すことができる登録型スポーツイベントにおいて外国人参加者のデータを蓄積することが重要である。

一方で、本研究の結果から、日本のランニングイベントにおいて、外国人参加者数を把握している大会は半数にも満たず、また、エントリー数よりも出走者数が把握されていない現状が明らかとなった。このことから大会運営側の把握方法の見直しが求められるだろう。

本研究で明らかとなった2015年時の日本のランニングイベント運営側が把握している外国人参加者数や開催地域内・外からの参加者数の実数は、ランニングイベントを戦略的に運営していくうえで重要な資料となることが考えられる。本研究では、大会の属性によって参加者数の把握状況にあまり違いは見られなかった。今後、本研究のデータに経年変化を加えていくことで、インバウンドツーリストを対象とするアプローチの多様化、マーケティング戦略の具体化、スポーツイベントの活性化に貢献できるだろう。

## VII. 謝 辞

本研究に協力してくださったマラソン大会事務局の方々には心より感謝申し上げます。ここに深く感謝の意を表します。

## 引用参考文献

- 1) 備前嘉文, 二宮浩彰, 庄子博人(2015) 都市型市民マラソン大会への参加における制約とランニング活動動向の関係: 個人内の制約と対人的制約からの検討. 生涯スポーツ学研究, 12(2), pp.15-23.
- 2) 北海道観光振興機構(2016) 平成28年度北海道観光成熟市場誘客促進事業(特定目的: マラソン) 諸外国における道内マラソン大会等関連旅行商品に係る調査報告 <https://www.visit-hokkaido.jp/company/material/detail/47> (閲覧日: 2020年1月6日)
- 3) 観光庁(2019) 訪日外国人消費動向調査2018年年間値(速報)及び10-12学期(1次速報)について. <https://www.jnto.go.jp/jpn/business/inbound/index>.

- html（閲覧日：2019年3月28日）
- 4) 観光庁（2018）観光庁資料（次世代ヘルスケア産業協議会第10回新事業創出WG）[https://www.meti.go.jp/shingikai/mono\\_info\\_service/jisedai\\_health/shin\\_jigyo/pdf/010\\_09\\_00.pdf](https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/jisedai_health/shin_jigyo/pdf/010_09_00.pdf)（閲覧日：2020年1月6日）
  - 5) 河田守弘，日原勝也，蹴揚秀男（2004）外国人観光客に係る統計情報のあり方に関する研究．PRI review, 14, pp.2-9.
  - 6) 間野義之（2016）奇跡の3年2019・2020・2021ゴールドデンスポーツイヤーズが地方を変える．徳間書店．
  - 7) 日本政府観光局（2019）インバウンドの動向．<https://www.jnto.go.jp/jpn/business/inbound/index.html>（閲覧日：2019年3月28日）
  - 8) 西尾 建（2019）インバウンドスポーツツーリストの制約要因．日本国際観光学会論文集, 26, pp.59-65.
  - 9) 日本スポーツツーリズム推進機構（2019）沿革．<http://sporttourism.or.jp/about/history.html>（閲覧日：2019年3月28日）
  - 10) 柴田恵里香（2014）スポーツツーリストのスポーツイベント再参加要因と開催地への愛着の関係性．SSF スポーツ政策研究=SSF journal of sport for everyone, 3(1), pp.167-176.
  - 11) 上杉 杏（2017）ランニングイベントに参加する訪日外国人スポーツ・ツーリストの分類—旅行者パーソナリティタイプに着目して—．順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科修士論文．
  - 12) 上杉 杏，工藤康弘（2016）日本開催ランニングイベントに対する外国人スポーツ・ツーリストの参加制約要因：個人的属性の違いに着目して．イベント学研究, 1(1), pp.29-36.
  - 13) 山口志郎，佐々木朋子，山口泰雄，野川春夫（2011）マラソンランナーの参加動機とPush-Pull要因に関する研究：NAHAマラソンにおける県内・県外参加者に着目して．神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要, 4(2), pp.57-67.

（令和元年9月13日 受付）  
（令和2年5月1日 受理）